

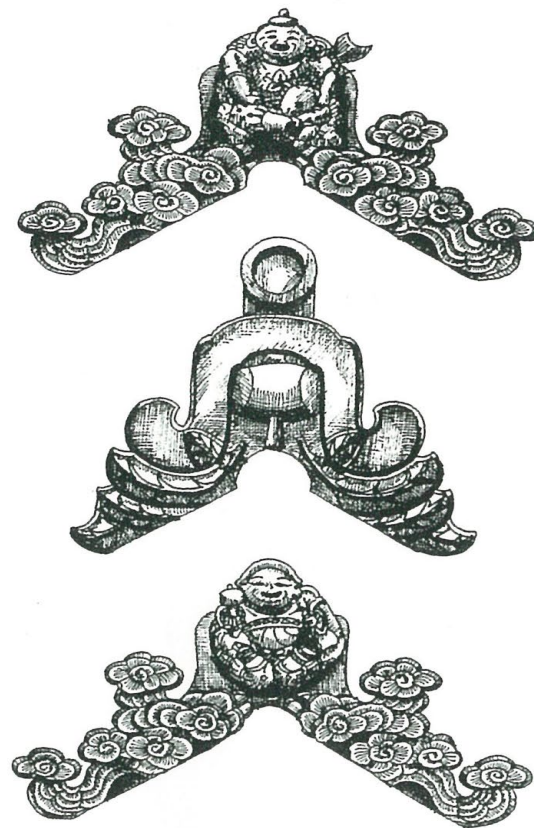
重要伝統的建造物保存地区
夢街道ルネサンス指定地区

さんようどう やかげしゆく
山陽道矢掛宿

岡山県小田郡矢掛町矢掛

備中矢掛宿の街並みをよくする会

会発足 平成4年2月 : 会員110名



全国に誇れる街並みの鬼瓦

矢掛町の概要



人口： 13,486人(2022.10)

世帯数： 約 5,440世帯(2022.10)

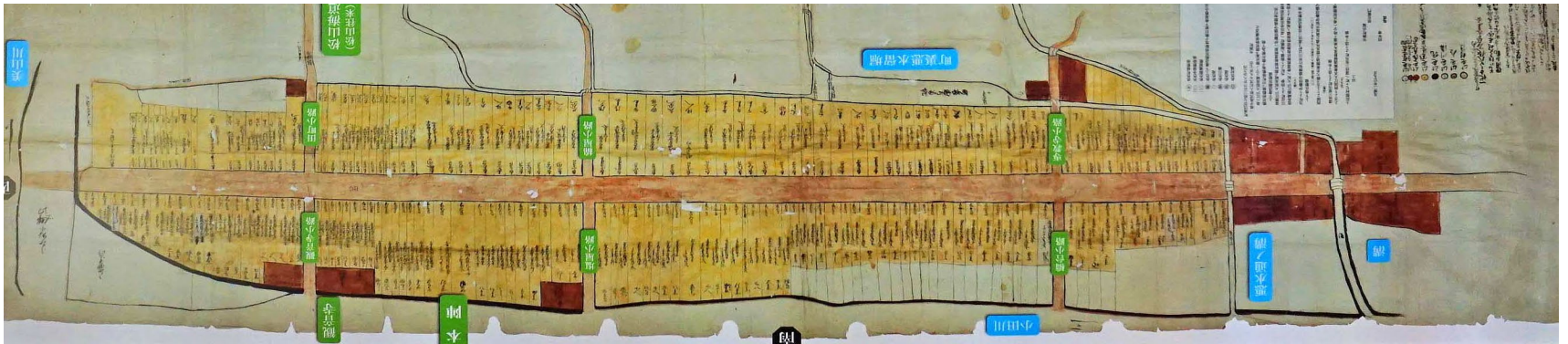
面積： 約 90km²

アクセス： JR倉敷駅から井原線利用で約30分
山陽道鴨方ICから約20分

- 特徴：
- ・旧山陽道の第18番目の宿場町
 - ・全国で唯一、本陣と脇本陣が共に国指定重要文化財に登録されている。
 - ・弥生時代の住宅遺跡に始まり、古墳、寺院、山城跡、宿場町、大庄屋建物等、2千年に及ぶ歴史と文化が身近に点在(指定文化財:71件/遺跡数379件)。
 - ・岡山県小田郡矢掛町である。(南北総数約 180軒)が混在、60軒近い店が現在も営業中。



町並みの特徴(400年の歴史)



元禄2年(1689)「矢掛町地子御免間数并絵図」

- ・ 街道沿いに、巾45cmの溝で仕切られた200あまりの堅固な地割(北側96戸、南側103戸)の存在。
- ・ **メインストリートが直線で長く(800m)、道幅が広い(平均8.82M)ため、建物の高さ(平均4.35m)に体する道幅の比率が高く(2.03)、広々とした空間を展開。**
- ・ 本瓦葺の妻入りと平入の町家がほぼ半々存在するリズムカルなスカイライン。
- ・ 屋根の勾配、壁などの外装、開口部のデザイン、虫籠窓、基壇等の統一感。
- ・ 江戸、明治、大正、昭和、平成とそれぞれの時代性を持つデザインの町家が併存している。

現在「矢掛町市街地図」





↑地割側溝 妻入↑ 地割側溝↑



平入り↑



↑長く、巾の広い道。広い空間。過去の写真



妻入り、平入の混在／無電柱化後の景観↑

矢掛の町並み維持保存活動

- ・昭和44年6月(1969):本陣、脇本陣重文指定。
- ・昭和47年:本陣裏門解体修理。
- ・昭和61年4月(1986)～平成3年3月(1991):本陣解体修理
- ・昭和61年6月(1986)～平成元年9月(1989):
「東京芸大前野研究室」による町並み保存対策調査。
本陣修理と平行して、197軒にのぼる町家の4年間で詳細調査
「矢掛の町並み修景基準案」が報告された。これを踏まえ、重伝建認定
申請機運が高まったものの、諸般の事由により実施されなかった。
- ・平成4年(1992)2月
古民家の景観整備を目的に、「備中矢掛宿の街並みをよくする会」設立。
- ・平成5年(1993)～19年(2007)景観整備事業 **合計75軒**の整備を実施。
整備総額 5.2億円、**1軒当たり自己負担約450万円**(3.2億円)、
差額を県の補助で賄った。
- ・平成21年(2009)夢街道ルネサンスに認定。
- ・令和2年(2020)重要伝統的建造物群保存地区に選定
- ・令和3年(2021)無電柱化工事完成<本陣～脇本陣区間510m>
- ・令和3年(2021)全国に先駆けて市街地型(無販売)道の駅完成



やかけ観光大使
やかつひ

備中矢掛宿の街並みをよくなる会

団体事務局所在地:

〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2638

福本屋サラダ館矢掛店内 ☎0866-82-0025

E-mail: tsuboi@crocus.ocn.ne.jp

理事会: 会長・坪井伸之、副会長2名、常任顧問1名、

監事理2名、理事16名 年6回

会員数: 会員110名、

年会費: 会員

(街並み-1,000円、フラワークラブ-1,000円)

設立: 平成4(1992)年2月

■地域の景観保全の歴史

当会は平成4年2月古民家の再生景観整備を行うことにより、来訪者にとってさらに魅力のあるものにし、住民にとって一層誇れるものとするを目的に発足した。景観整備事業を行なうに当り住民の理解と協力を得て平成5年から平成19年にかけて自主改修を含め75軒(補助対象72軒、自主改修3軒)の景観整備関連事業を行なった。総事業費5億を超えるものとなった(補助金総額は1億5,790万円)。残された歴史的価値の高い古民家が15軒~20軒あるが、老朽化が進み、修理修景が必要である。会発足以来25年間「花いっぱい運動」を行っている。街並沿いにフラワーポットを設置し、四季折々の花苗を120軒に配布しており、管理は沿道の住民が行い景観の維持を図っている。街並の景観を損なわないよう側溝上に物を置かない様にしており、「花のあるまち」「ゴミのない町」を合言葉に心とむ街並みが形成されている。

●団体の目的

旧山陽道の宿場町として発達した備中矢掛宿の街並み景観を整備し、快適で潤いのあるまちづくりに寄与することを目的とする。

●活動

平成5年~平成9年、平成14年~平成19年 街並み景観整備事業

平成12年 郷土賞(ふるさと)ふれ合い小道 建設省

平成15年 優良団体賞 岡山県警察本部

平成18年 第1回流し雛・行列始まる

平成20年 重伝建保存地区と無電柱化まちづくり講座

平成21年 夢街道ルネサンス(山陽道矢掛宿)に認定される

平成22年 夢街道認定式と記念講演会

平成22年 観光事業功労者表彰 岡山県観光連盟

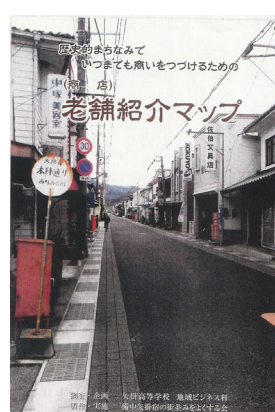
平成24年 街道文化を生かした勉強会

平成25年 重伝建と空き家有効活用勉強会

平成25年 住まいのまちなみコンクール国土交通大臣賞受賞(セミナー講演)

平成25年 第36回全国町並みゼミ倉敷大会(矢掛で分科会を開催)

平成25年 協働の街づくり表彰 矢掛町



平成26年 住宅生産振興財団 矢掛交流会(全国7団体集合)

平成26年 住まいのまちなみネットワーク総会(東京)

平成26年 やかげ世代交流シンポジウム

平成26年 空き家調査有効活用プロジェクト会議・老舗紹介マップ発行

平成27年 空き家調査・有効活用プロジェクト敢闘賞 中国建設弘済会

平成27年 中国地方空き家サミット(広島市)

平成27年 歴史と文化の祭典(菓子博、流しびな・行列他)

平成27年 第1回旅づくり塾(倉敷市)

平成27年 第2回旅づくり塾(矢掛町)

平成27年 中国5県活動発表会(中国建設弘済会主催)において準優勝

平成27年 岡山県備中県民局協働事業: 備中・矢掛まるごと博物館開催

平成27年 備中・町並みゼミ矢掛大会

平成27年 歴史的まちなみ保存意見交換会

平成28年 町家でクラス開催

平成28年 岡山県備中県民局協働事業

平成29年 町家の写真パネル作成(約50戸配布)

平成29年 重伝建説明会(住民との意見交換会)

平成29年 町家でクラス開催

平成29年 矢掛道の駅・視察及び意見交換会

平成30年 無電柱化打合せ(広島市)、すまいのまちなみネットワーク(東京)

令和元年 倉敷市伝建条例制定50周年総会(倉敷市)

令和元年 内子、大州74方面研修視察(伝建地区、道の駅)

令和元年 街並みネットワーク講演会(総社市)、伝建地区制度保存検討委員会

令和2年 すまいのまちなみネットワーク総会(ZOOM)

令和2年 重伝建選定記念瓦版発行、町家でクラス開催 矢掛宿・小田堀越塾

令和3年 重伝建選定記念街並み展示会

令和3年 道の駅竣工式、街並みネットワーク講演会(倉敷市)

令和3年 夢街道ルネサンス(ZOOM)

* 主な活動指針

・重伝建選定後の活動に向けて

・美化活動花いっぱい活動

・郷土を愛し誇りの持てるまちづくり活動

・住まいの街並みコンクール大臣賞に伴う交流

・夢街道ルネサンス認定地区に伴う活動と交流

・賑わいの街づくりイベントに協力

(大名行列、流しびな・行列、小唄踊り他)

※課題

・今後の活動の方向性(後継者、移住者、学生他団体とのコラボと連携)



古民家再生事業-1

- **メインストリートの古民家解体計画への危機感(平成25年)**
 - 景観整備事業に参加出来なかった家屋に関して
- 中央部分の古民家解体は町並みの崩壊を意味する
- **何としても町並みを守るとの住民判断と財源確保**
- 古民家再生事業実施へ
- 中央3エリアをベースとした拠点整備の実施
- **町並みの景観保持とにぎわい創出のための空き家活用策検討**



古民家再生事業-2

旧谷山邸(昭和初期の建物で昭和50年頃より空家)

平成26年2月オープン
やかげ町家交流館



建物面積:355㎡



イベント、飲食ホール
谷山サロン



物販、情報提供施設

運営方法:指定管理者制度
運営主体:株式会社やかげ宿
資本金 1千万円
出資者 180名+町
目的:町観光の拠点であり、町並みに賑わいを創出する。

古民家再生事業-3

旧赤澤・守屋邸(江戸末期の建物／脇本陣も勤めた)



旧竹内邸(明治期の建物／肥料販売事業)



平成27年3月オープン
矢掛屋 INN & SUITES
15室 48人収容



矢掛屋本館

運営方法: 指定管理者制度
運営主体: 株式会社シャンテ
目的: 宿泊施設の展開。観光客のみならず、町民も楽しめる賑わいづくりにつながる事業展開。



矢掛屋温浴別館

古民家再生事業-4

【事業費】

やかげ町家交流館	153,020千円
矢掛屋本館及び温浴別館	566,346千円
計	719,366千円

【財源内訳】

社会資本整備総合交付金	114,204千円
過疎対策事業債	581,500千円
町費負担	23,662千円
計	719,366千円



古民家再生事業-5

行政主導の古民家再生が民間にも刺激を与え、自ら新規事業を展開するケースが生まれ始めた。観光元年宣言以来13件の新規事業展開が実現している。

江戸時代の民家



平成27年8月オープン シーズ藤原家
運営方法: 所有主による建設・売却
運営主体: 物件購入者
目的: 民間資金による飲食、物販施設



旧筒井木材製材所



平成28年4月オープン あかつきの蔵
運営方法: 所有主による建設・賃貸
運営主体: シャンテ
目的: 民間資金による飲食、物販施設



バンケットホール(食事、宴会、イベント) ショップギャラリーみやげ物販売等
最大120名収容

重要伝統的建造物群保存地区選定申請活動等

- 「東京芸大前野研究室」の調査報告から既に30年近くが経過。この間幾度か「重伝建構想」が出されたが、制度の厳しさへの懸念から実現を断念、代わりに「景観整備事業」によって、建物前面の修景を実施。現在の景観となった。
- 最近の文化庁の文化財に対するスタンスの変化を踏まえ、平成28年3月教育委員会が改めて伝建化を志向、住民説明会を数次にわたり開催。この結果、選定条件の緩和などもあり、対象地域自治会の大方の賛同を得ることとなり、今後、協定協議などを経て、令和2年12月に選定された。
- 重伝建と並んで懸案だった無電柱化に関しては経費問題があったが、矢掛町商店街が国の無電柱化モデル地区の一つとして選定され、電線管理者が主体となり、2年程度の調査を経て無電柱化工事が令和3年2月完成した。
- 商店街まるごと道の駅設置構想が具体化、現在候補地の土地収用を進めている。全国初の物販の無い施設で、商店街との共存を狙っている。令和3年3月にオープンした。

以上これまでの諸施策に加えて、上記3件の施策が実現し、市街の景観、機能は大幅に改善され、さらに魅力的な矢掛町となることが期待される。

交流人口の増加とインバウンド対策

- 古民家再生有効活用による観光拠点ならびに宿泊施設の設置に伴い、「観光」と言う言葉にスポットライトが当てられた。これに伴い、平成27年を「矢掛町観光元年」と位置付け、観光による賑わいの町づくりに積極的に取り組むことを宣言。
- 備中県民局との共同事業として、ツアーメニューのトライアルを実施。矢掛町に残る様々な遺産、自然などを特定ストーリー等をめぐる企画として、備中神楽の昼間10時間公演、旧山陽道、山城、寺社仏閣、町並みなどに関するシンポジウム等を実施。3年で延べ2千人近いツアー参加者を迎え、矢掛観光の可能性が具体化した。
- 平成29年には交流館の来館数5万人、矢掛屋の宿泊数1万人と言う数値を記録。
- 調査の中でイタリアの新たなホテルシステム、アルベルゴ・デフーズ(AD)の関係者が矢掛を訪問、宿泊環境を視察して、ADとほぼ同一思想のホテル展開と判断、矢掛屋と矢掛町をアジア初のアルベルゴ・デ・フーズホテル、シティとして認定した。この10月には関係者がイタリアを訪問、彼の地のアルベルゴ・デフーズホテルに実際に宿泊し、その内容と将来性を確認した。11月11日の大名行列にはイタリアからホテル関係者が来町した。

最後に

この三大事業「重伝建」「無電柱化」「道の駅」が完成(当会の活動)

平成18年 宿場町やかげ流しびな行列が始まる。

平成20年 NPO法人電線のないまちづくり支援ネットワーク(講演及び勉強会)

平成21年 夢街道ルネサンス認定

平成25年 住まいのまちなみコンクール国土交通大臣賞受賞

町並みゼミ倉敷大会 矢掛分科会

一町並みネットワーク加盟一

平成27年・28年・29年

岡山県との協働事業として

・「歴史と文化の祭典、まるごと博物館、歴史散歩、ツアー、(多数回)」

・「著名講師の後援、シンポジウム(複数回)」

・「各戸の正面写真と家の由来をパネルにして展示()」

・「備中大神楽(大ホール)(3回)」・「大菓子博(商店街、交流館)」

この頃から各種団体が「まちづくり」に参加してきた。

さんようどう やかげしゆく
山陽道矢掛宿

ぜひ矢掛の街道文化に
触れてみてください！



ご清聴ありがとうございました。